

米の消費動向 ②(精米購入時の動向)

【購入・入手経路（複数回答）】

単位：％

	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	令和4年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和5年 1月
デパート	1.4	1.4	1.0	1.5	1.6	1.3	1.5	1.2	1.7	1.4	1.2	0.8	1.1	1.4	0.9
スーパーマーケット	49.4	52.7	50.1	49.8	50.5	51.2	52.5	52.2	49.8	52.0	51.0	48.0	47.6	51.1	49.7
ドラッグストア	4.3	4.8	5.9	5.7	6.6	5.3	6.5	5.6	6.8	5.7	4.3	4.7	4.5	4.6	5.5
ディスカウントストア	3.1	2.8	3.2	3.9	3.9	4.4	3.7	3.7	4.6	4.1	4.7	5.2	4.9	4.9	5.4
コンビニエンスストア	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.4	0.2	0.3	0.4	0.1	0.1	0.5	0.5	1.1	0.0
生協(店舗・共同購入含む)	6.9	6.5	5.9	7.0	6.3	4.6	6.0	6.0	5.9	6.3	5.8	6.6	5.8	5.7	6.8
農協(店舗・共同購入含む)	1.6	1.2	1.3	1.1	0.8	0.9	1.3	1.4	1.0	1.2	0.6	1.0	0.7	0.6	1.1
米穀専門店	2.8	2.7	2.4	2.4	2.3	2.4	1.8	2.2	1.8	2.1	1.9	2.6	2.2	2.4	2.7
産地直売所	2.0	2.2	1.0	1.1	1.2	1.1	1.0	0.7	1.3	1.0	2.1	1.9	2.0	1.3	1.1
生産者から直接購入	7.1	6.0	5.9	5.0	5.5	5.3	4.4	4.2	4.6	4.5	3.7	5.5	5.1	4.2	4.2
インターネットショップ	10.0	9.8	8.1	9.7	8.6	9.1	8.8	10.1	8.2	8.9	7.6	8.2	9.6	9.1	7.1
家族・知人などから無償で入手	16.2	14.8	17.8	15.2	15.0	14.5	14.7	13.7	14.3	12.8	18.1	18.2	18.4	15.6	16.9
その他	2.5	2.3	3.4	4.1	4.3	4.9	3.1	4.6	5.2	4.9	3.3	4.5	5.4	5.2	4.4

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

（注）平成29～令和3年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。

米の消費動向 ③(精米購入経路別の購入単価、家庭内の月末在庫数量)

【精米購入経路別の購入単価（複数回答）】

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	（店舗・共同購入含む）	（店舗・共同購入含む）	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	有効調査世帯数
												(円/kg)
令和元年度	618	399	355	323	※545	424	477	473	434	373	494	－
2年度	533	400	375	347	※547	434	397	477	415	358	492	－
3年度	541	373	357	315	※612	412	※417	485	451	358	471	－
令和4年4月	355	353	322	373	※424	458	※346	427	717	309	453	2,097
5月	579	375	338	275	※406	381	386	535	452	389	386	1,952
6月	607	365	345	310	※451	375	373	486	※383	388	420	1,842
7月	375	356	315	298	※374	380	402	447	394	345	481	1,752
8月	395	345	327	276	※403	359	415	397	336	387	398	1,688
9月	561	368	337	286	※310	421	※344	447	433	306	386	1,626
10月	※401	373	321	300	※428	429	482	470	471	322	448	2,110
11月	416	385	322	301	※515	372	※333	438	383	337	475	1,968
12月	684	373	332	371	793	370	※356	491	418	328	455	1,855
令和5年1月	※677	377	328	331	※353	446	346	497	337	380	500	1,779

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
(注1) デパート、スーパーマーケット、生協は、実店舗の購入単価であり、インターネットを利用した購入は含まない。
(注2) 購入単価は消費税を除く本体価格である。
(注3) 表中の※付きの単価は、当該経路での購入割合が有効調査世帯数の1%未満に満たないため参考値とする。

【家庭内の月末在庫数量】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
平成29年度	月末在庫数量	6.1	6.2	5.9	6.0	6.0	6.1	6.7	6.8	7.0	6.9	6.4	6.4	6.4	▲4.5
	平均世帯人員	2.33	2.32	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	－
30年度	月末在庫数量	6.4	6.3	6.0	5.8	6.1	6.5	6.6	6.9	7.2	6.6	6.4	6.4	6.4	0.0
	平均世帯人員	2.32	2.32	2.32	2.33	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	－
令和元年度	月末在庫数量	6.0	6.2	5.9	5.7	6.0	6.2	6.2	6.5	6.6	6.3	6.3	6.5	6.2	▲3.1
	平均世帯人員	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.33	－
2年度	月末在庫数量	7.1	6.5	6.6	6.2	6.0	6.3	6.4	6.8	6.7	6.6	6.5	6.4	6.5	4.8
	平均世帯人員	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	－
3年度	月末在庫数量	6.2	6.1	5.8	5.8	5.7	6.2	6.9	7.1	6.9	6.8	6.8	6.7	6.4	▲1.5
	平均世帯人員	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.33	－
4年度	月末在庫数量	6.6	6.6	6.4	6.5	6.4	6.3	6.6	6.8	7.0	6.8			6.6	3.1
	平均世帯人員	2.21	2.21	2.21	2.21	2.21	2.21	2.22	2.22	2.22	2.22			2.21	－

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
(注1) 地域ごとの世帯人員構成比が平成29～令和3年度はH27国勢調査、令和4年度はR2国勢調査「世帯人員構成比」に沿うようウェイトバック集計を実施した上で集計した。
(注2) 平均世帯人員は、各月の有効調査世帯の平均人員数である。

主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)

[調査の概要]

全国米穀販売事業共済協同組合が、米穀の販売・需要動向を多角的に把握することを目的として、同組合会員企業を対象に実施。
四半期ごとに継続的に調査。

○ アンケート回答数 59組合員

1. 現在(令和4年12月)の米販売量(前年同月との比較)

集計結果	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
	100.0%	11.9%	20.3%	30.5%	18.6%	18.6%
<仕向先別>						
(小売店向け)	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
大手スーパー	100.0%	13.2%	5.3%	39.5%	28.9%	13.2%
中小スーパー	100.0%	3.7%	24.1%	37.0%	25.9%	9.3%
米穀専門店	100.0%	3.9%	5.9%	41.2%	31.4%	17.6%
その他	100.0%	9.1%	20.5%	22.7%	29.5%	18.2%
(外食産業向け)	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
外食向け	100.0%	7.7%	38.5%	40.4%	9.6%	3.8%
中食向け	100.0%	5.4%	30.4%	46.4%	12.5%	5.4%
給食向け	100.0%	1.9%	3.7%	77.8%	14.8%	1.9%

2. 米販売の動き:過去3ヶ月前との比較 / 3ヶ月後の見通し

(1) 過去3ヶ月前(令和4年9月)と比較した令和4年12月の動き

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	22.0%	27.1%	28.8%	20.3%	1.7%	61.9

(参考) 前回調査 令和4年6月と比較した令和4年9月の動き

100.0%	7.3%	12.7%	29.1%	32.7%	18.2%	39.6
--------	------	-------	-------	-------	-------	------

(2) 令和4年12月から3ヶ月後(令和5年3月頃)の見通し

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	0.0%	28.8%	39.0%	27.1%	5.1%	47.9

(参考) 前回調査 令和4年9月から3ヶ月後(令和4年12月頃)の見通し

100.0%	0.0%	34.5%	25.5%	36.4%	3.6%	47.7
--------	------	-------	-------	-------	------	------

* 1. 赤字は、最頻値及びDI値。
2. DI(diffusion index)の算出方法:内閣府で発表している「景気ウォッチャー調査」方式を採用した。具体的には、5つの回答選択肢に均等に0~1の評価点を与え、各回答の構成比に対応するそれぞれの評価点を乗じ、それらの合計を指数(%ポイント)としてDI値を算出。それが50の場合は横ばい(現状維持)を示す。0に近づくほど販売が低迷傾向にあることを示し、逆に100に近づくほど販売が好調傾向であることを示す。

(算出例)	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
評価点 A	1	0.75	0.5	0.25	0
結果(構成比) B	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値 C=A×B	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4→米販売の動きはほんの少し低迷傾向				

(参考) 茶わん1杯のお米の値段

○ ご飯は経済的な食べ物

○ 茶わん1杯のごはんを炊く前のお米(精米)の重さは 65g くらいです。5kgの精米は約77杯になりますので、1,924円(小売価格の平均)のお米を買ってごはんを炊いた場合、1杯当たりのお米の値段は 約25円 となります。※

※ 茶わん1杯のごはんは、精米65g使用、5kg当たり1,924円(POSデータによるコメの平均小売価格(令和4年12月))で算出。



=

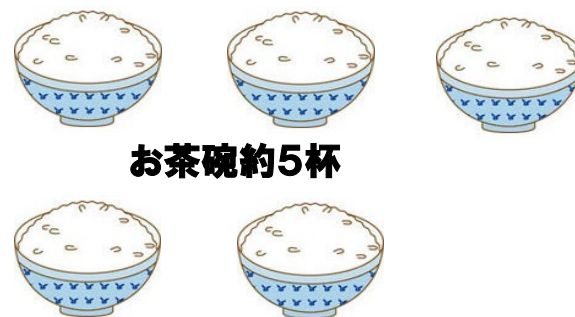


お茶碗約4杯

ミネラルウォーター(2リットル)101円



=



お茶碗約5杯

缶コーヒー 130円

出展：ミネラルウォーターは、総務省「小売物価統計調査(主要品目の東京都区部小売価格)」による2021年平均価格
缶コーヒーは、街中の自動販売機等で販売されている一般的な価格

販売目的で作付けした水稻の作付面積規模別農業経営体数（平成22年～令和3年）

- 都道府県全体では、一貫して農業経営体数は減少（平成22年 1,169千戸→令和3年 654千戸）。
- 北海道では10ha以上作付している農業経営体が4割を占め、全体に占める割合も増加（平成22年 23.4%→令和3年 40.0%）。都府県では1ha未満農業経営体数が約2/3を占めるものの、5ha以上作付している農業経営体の数・割合が増加しており（平成22年 28千戸（2.4%）→令和3年 42千戸（6.5%））、大規模農家の割合は増加傾向にある。

	北海道					都府県					
	計	3ha未満	3ha～5ha	5ha～10ha	10ha以上	計	1ha未満	1ha～2ha	2ha～3ha	3ha～5ha	5ha以上
平成22年	16	4	3	5	4	1,153	845	190	54	36	28
	(100.0)	(26.4)	(17.3)	(32.9)	(23.4)	(100.0)	(73.3)	(16.5)	(4.7)	(3.1)	(2.4)
平成23年	15	4	3	5	4	1,106	809	186	49	33	30
	(100.0)	(26.8)	(18.3)	(31.4)	(23.5)	(100.0)	(73.1)	(16.8)	(4.4)	(3.0)	(2.7)
平成24年	15	4	3	5	4	1,056	769	175	48	34	30
	(100.0)	(24.3)	(18.2)	(31.8)	(25.7)	(100.0)	(72.8)	(16.6)	(4.6)	(3.2)	(2.9)
平成25年	14	3	3	4	4	1,027	738	172	50	35	33
	(100.0)	(24.3)	(18.6)	(31.4)	(25.7)	(100.0)	(71.8)	(16.7)	(4.9)	(3.4)	(3.2)
平成26年	14	3	3	4	4	997	707	171	51	34	35
	(100.0)	(23.2)	(18.1)	(31.9)	(26.8)	(100.0)	(70.9)	(17.1)	(5.1)	(3.4)	(3.5)
平成27年	13	3	2	4	4	939	660	159	50	36	35
	(100.0)	(23.1)	(15.6)	(31.4)	(29.9)	(100.0)	(70.3)	(16.9)	(5.3)	(3.8)	(3.7)
平成28年	13	3	2	4	4	876	599	153	51	34	39
	(100.0)	(23.4)	(16.4)	(27.3)	(32.8)	(100.0)	(68.4)	(17.5)	(5.8)	(3.9)	(4.4)
平成29年	13	3	2	4	4	821	556	144	47	34	41
	(100.0)	(22.2)	(13.5)	(31.7)	(32.5)	(100.0)	(67.7)	(17.5)	(5.7)	(4.2)	(5.0)
平成30年	13	3	2	4	4	793	531	141	46	34	42
	(100.0)	(23.4)	(14.8)	(28.9)	(32.8)	(100.0)	(66.9)	(17.8)	(5.8)	(4.3)	(5.3)
平成31年 (令和元年)	12	3	2	4	4	766	507	138	44	34	43
	(100.0)	(22.0)	(14.6)	(28.5)	(34.1)	(100.0)	(66.1)	(18.0)	(5.8)	(4.5)	(5.6)
令和2年	11	2	2	3	4	703	449	131	45	35	43
	(100.0)	(19.6)	(14.2)	(29.3)	(37.0)	(100.0)	(63.9)	(18.7)	(6.5)	(4.9)	(6.0)
令和3年	10	2	1	3	4	644	410	121	41	31	42
	(100.0)	(19.0)	(14.0)	(26.0)	(40.0)	(100.0)	(63.6)	(18.7)	(6.3)	(4.8)	(6.5)

注：平成22、27、令和2年は、「農林業センサス」、その他の年は、「農業構造動態調査」の調査結果に基づくもの。

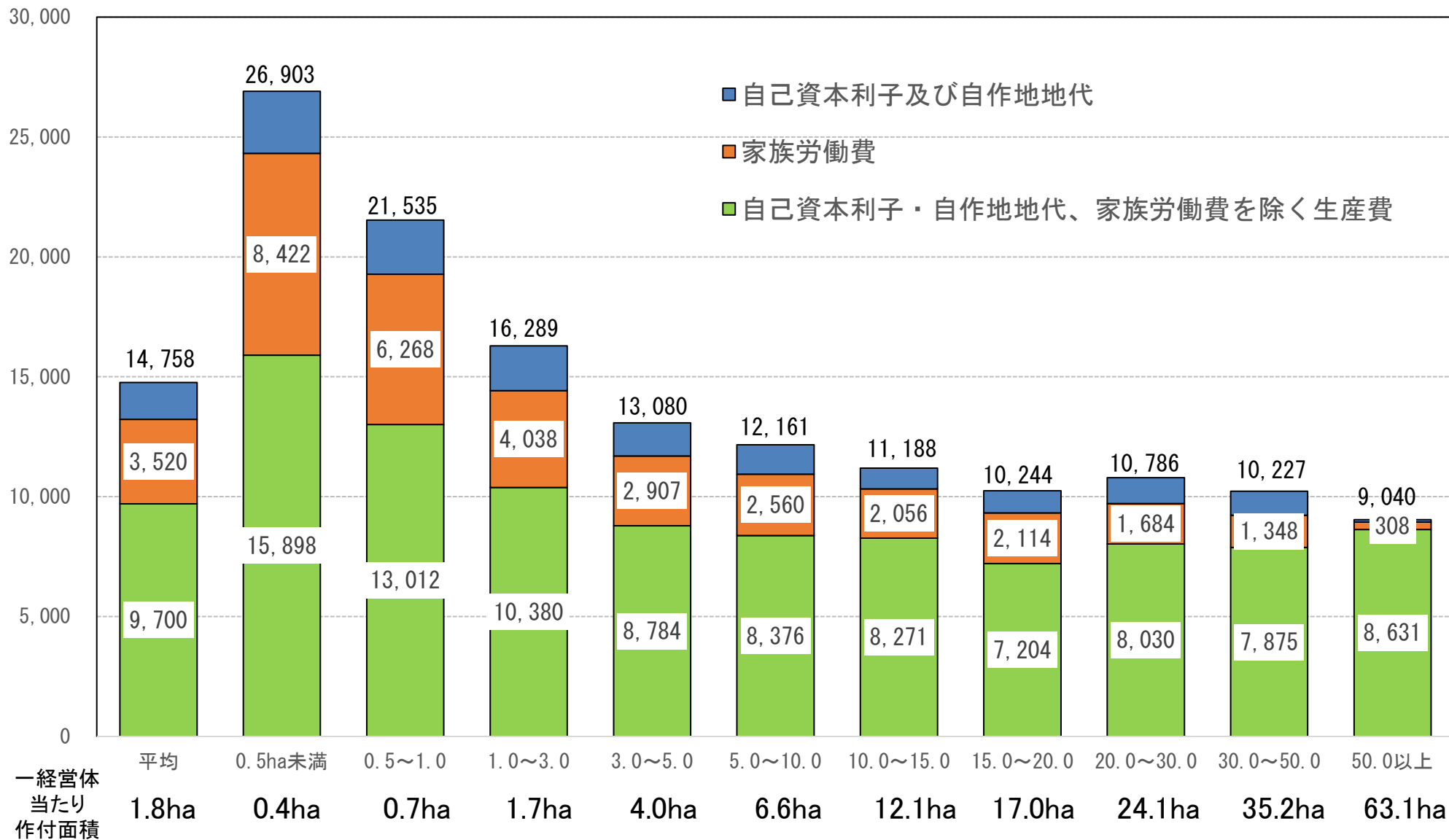
（農林業センサスは全数調査であるが、農業構造動態調査は標本調査である。）

ラウンドの関係で計と内訳の合計が一致しない場合がある。

上段（農業経営体数）：千戸
下段（割合）：%

米の作付規模別60kg当たり生産費(令和3年産)

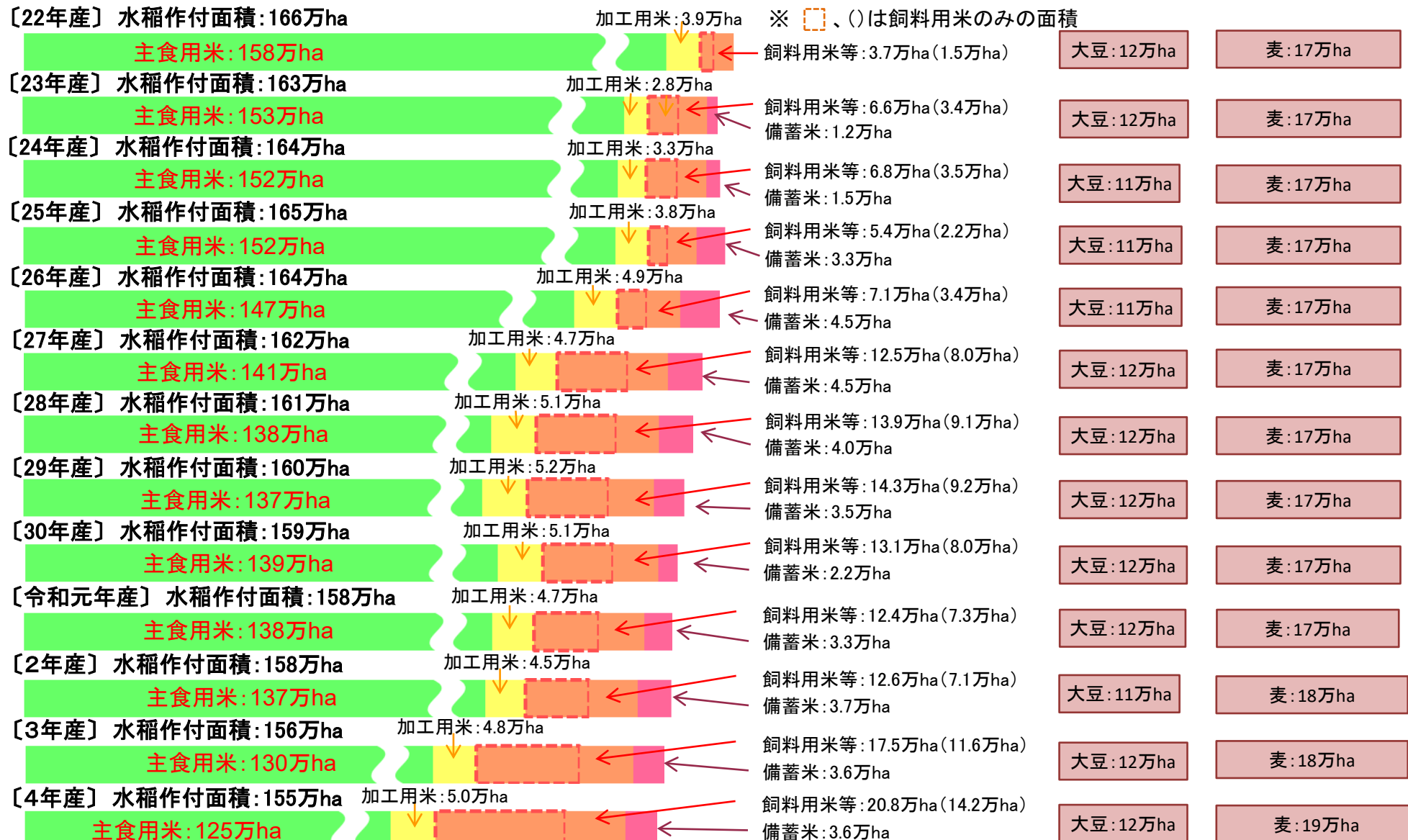
(円/60kg)



出典: 令和3年産農産物生産費統計(第1報)

水田の利用状況の推移

○ 主食用米の需要が毎年減少する中で、麦、大豆等の需要のある作物への作付転換を進めている。



※ 水稻、麦、大豆：「耕地及び作付面積統計」、主食用米：「作物統計」、加工用米、飼料用米等(飼料用米、米粉用米、WCS用稲、新市場開拓用米等)：「新規需要米の取組計画認定状況」
備蓄米：地域農業再生協議会が把握した面積

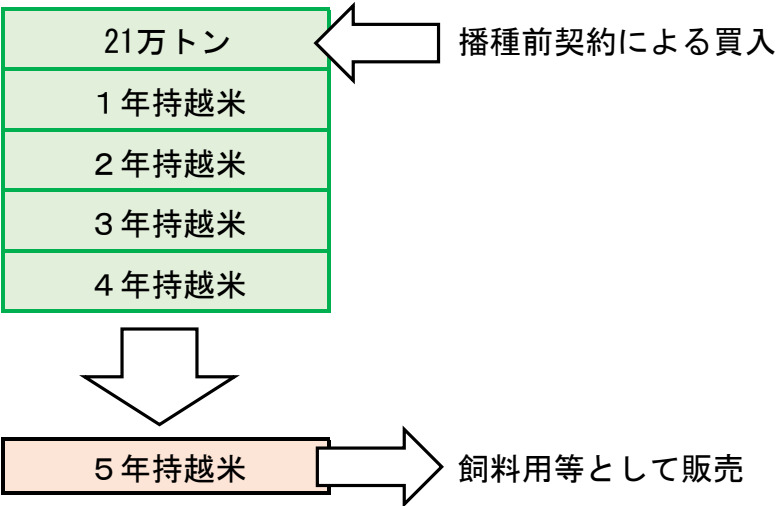
政府備蓄米の運営について

- 政府米の備蓄については、適正備蓄水準を100万トン程度として運用（10年に1度の不作（作況92）や、通常程度の不作（作況94）が2年連続した事態にも国産米をもって対処し得る水準）。
- 備蓄運営については、政府による買入・売渡が市場へ与える影響を避けるため、通常は主食用途に備蓄米の販売を行わない棚上備蓄を実施（備蓄米を供給するのは、大不作などの場合のみ）。
- 基本的な運用としては、適正備蓄水準100万トン程度を前提とし、毎年播種前に21万トン（※）程度買入れ、通常は5年持越米となった段階で、飼料用等として販売。

※ 基本的な買入数量については、従来、毎年20万トン程度としてきたが、現在は、CPTPP協定による豪州産の輸入量に相当する量を加えた21万トン程度として運用。
なお、豪州産の取扱いについて、会計検査院の指摘を踏まえ、今後、実際に豪州から輸入される数量に見合った規模の買入れとなるよう対応していく考え。

基本的な政府備蓄米の運用

原則21万トン程度 × 5年間程度 → 100万トン程度

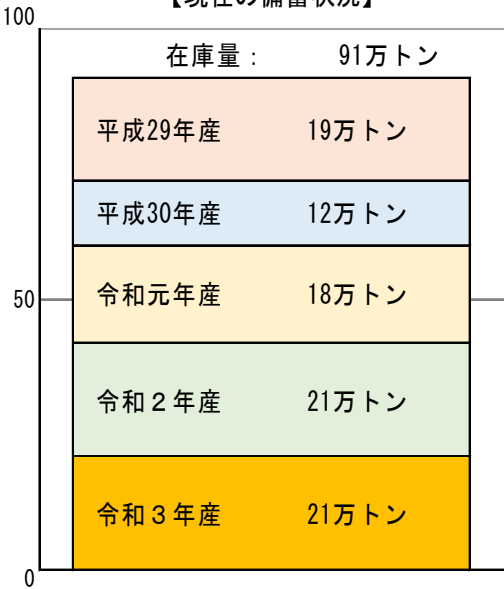


政府備蓄米の現在の在庫状況

【最近の買入数量】

平成29年産	19万トン
平成30年産	12万トン
令和元年産	18万トン
令和2年産	21万トン
令和3年産	21万トン
令和4年産	21万トン（予定）

【現在の備蓄状況】



注：ラウンドの関係で在庫量と内訳が一致しない場合がある。